

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式					
AM14Z001		医療倫理学Ⅰ (MedicalEthicsⅠ)					導入教育科目 社会・経済		対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態				
必修	1	1	医学部医学科 先進医療科学科	前期	月3	日本語				単独				
担当教員	氏名 今井 浩光													
	E-mail imaih@oita-u.ac.jp 内線 5600													
授業の概要	医療における倫理を学ぶ基礎として、倫理の概念、倫理学の歴史と代表的な倫理理論の考え方を学習する。それを元に、社会における医療の意味、医療に求められる倫理、望ましい医療者患者関係などについても、学びを深める。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1 倫理学の歴史と代表的な倫理理論を説明できる。								○			○			
目標2 社会における医療の意味について説明できる。											○			
目標3 医の倫理、望ましい医療者患者関係について説明できる。											○	○		
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)								2			7	1		
授業の内容														
1 倫理学の基礎、倫理的判断のあり方														
2 生命の価値、尊厳、社会と個人のあり方														
3 規範倫理学1(徳の倫理学)														
4 規範倫理学2(帰結主義)														
5 規範倫理学3(義務論)														
6 権利について(権利論)														
7 法と倫理														
8 患者の権利														
9 医の倫理の歴史														
10 プロフェッショナリズムと医療者の責務														
11 医療者患者関係とインフォームド・コンセント														
12 ケアの倫理														
13 動画コンテンツ視聴														
14														
15														
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認		倫理的なジレンマを生む状況について、自らの考察をまとめ、レポートを作成する。少人数でのグループディスカッションにて多様な考え方があること、多面的な考察の重要性を学ぶ				工夫その他の	動画コンテンツを利用する。						
	B:意見の表現・交換													
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		新聞、テレビ、インターネットなどのメディアを通じて、倫理的な課題を含む社会の出来事に常に関心を持つ(15h)											
	事後学修		関心を持った事例について、授業で学習した知識、考え方をを用いて、考察する(15h)											
	想定時間合計		30											
教科書	資料を配布する													
参考書	指定しない													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	試験		90%	○	○	○							
	レポート		10%		○								
注意事項													
備考													
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の有無	○												
教員の 実務経験	附属病院の医師												
実務経験を いかした教育内容	医療現場で起こる倫理的ジレンマを講義の題材とする。												